

イチジク株枯病の新しい農薬 「オンリーワンフロアブル」



イチジク株枯病

薬剤の組合せ処理(例)

処理月日	薬剤名
2010. 5. 6	オンリーワンフロアブル2,000倍
6.17	トップジンM水和剤500倍
8. 3	オンリーワンフロアブル2,000倍
10. 1	オンリーワンフロアブル2,000倍
10.27	トップジンM水和剤500倍
2011.5.2	オンリーワンフロアブル2,000倍
6.17	トップジンM水和剤500倍
7.20	オンリーワンフロアブル2,000倍
10. 7	オンリーワンフロアブル2,000倍
10.31	トップジンM水和剤500倍

開発のねらい

イチジク株枯病は防除が極めて難しい土壌病害であり、防除対策としては薬剤の土壌処理が必要です。そこで、防除効果が高い薬剤を選抜し、農薬登録を進めました。

新技術の概要

- オンリーワンフロアブル（2,000倍液5 L／樹及び同10L／樹、株元灌注処理）は、対照薬剤（トリフミン水和剤500倍液1 L／樹）よりも高い予防効果が得られます。
- オンリーワンフロアブルとトップジンM水和剤を組み合わせると、2年間にわたって高い防除効果が得られます。
- オンリーワンフロアブルは、定植1年目に処理すると新梢の節間短縮や葉の濃緑化などの薬害がみられますが、2年目の処理ではほとんどみられません。

活用場面

イチジク被害の軽減による農家所得の向上と、安定供給によるブランド化に役立ちます。